水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

「陽光丸」Ⅲ世竣工する

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 船戸, 健次 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008560

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

調査航海のエピソード

― 「陽光丸」Ⅲ世竣工する ―

陽光丸船長　船戸　健次

「陽光丸」Ⅲ世（総トン数 692 トン）は、我が国周辺水域、特に東シナ海における水産資源の管理、海洋環境の保全、及び水産資源の中国・韓国等との国際共同管理をより迅速かつ効率的、効果的に推進するために新しく建造され、2010 年 11 月に竣工しました。

新造船は様々な最新鋭の航法装置や漁具・海洋観測機器を備えていますが、以下に二点ほど紹介します。まず第一はハイブリッド式環境センサー付き多段開閉ネットで、我が国の調査船への実戦配備は初めてです。これは開閉機構付きプランクトンネットに環境センサー（CTD）が付いており、船上からアーマードケーブルを介して網の開閉がコントロールでき、任意の水深帯（4 層）においてプランクトンを採集するものです。また、網口面積と網目合が異なるプランクトンネットを同時に曳網することにより、大きさの異なるプランクトン標本も採集できます。仔稚魚の分布水深と水温など海洋環境との関係を調査するのと同時に、これら仔稚魚の餌料プランクトンを採集することにより、仔稚魚の生残要因の解明、新規加入量予測、及び資源評価等に大きく役立ちます。第二は日本では初めて導入される最新の計量ソナーです。計量魚群探知機は鉛直的に音波を出しますが、本機器は音波を扇状に出すことによって、魚群を二次元で幅広く感知することが可能で、コンピューター処理により三次元で広範囲の魚群量を推定できるのが特徴です。本ソナーの使用により、アジ・サバ・イワシ類等魚群の形状や行動を詳細に把握することができ、魚群単位での魚の量、漁場形成メカニズム、及び資源量の推定に大きく貢献します。

平成 23 年 1 月 25 日長崎県美術館ホールで水産庁、長崎県、長崎市、（独）水産大学校等からの来賓や水産業界、関係団体などの出席を得て竣工披露式が執り行われました。その後、長崎港常磐岸壁で、来賓に加え理事長、理事、所長、小職の８名による華々しいテープカット、一般見学会が行われ、約 200 名の方にご来船いただき、盛況のうちに終了いたしました。

式典、見学会を無事乗り切った「陽光丸」Ⅲ世は、夕刻、最初の調査航海のため常磐岸壁を離岸し、最初の任務地の東シナ海へと向かいました。

今後は、浮魚・底魚類の資源生態調査、卵稚仔調査、大型クラゲ等の生物調査、生物環境調査等を実施する予定です。